

## 会議録

1. 附属機関の名称：犬山城管理委員会
2. 開催日時：令和 2 年 8 月 4 日（火） 午後 2 時 00 分から午後 3 時 00 分まで
3. 開催場所：犬山市役所 2 階 201・202 会議室
4. 出席した者の氏名
  - (1) 委 員 日比野良太郎、長谷川良夫、成瀬淳子、宮田昭男、中村貴文  
吉田鋭夫、岡覚、白水正
  - (2) 執行機関 歴史まちづくり課 中村部長、中村課長、加藤課長補佐  
渡辺統括主査、山田  
犬山城管理事務所 酒向所長、村中副所長、中島
  - (3) そ の 他 山田拓郎市長、滝誠教育長
5. 報告事項
  - (1) 令和元年度犬山城関連主要事業の実績について
6. 議題
  - (1) 犬山城の新型コロナウイルス対策について
  - (2) 令和 2 年度犬山城関連主要事業計画(案)について
7. 傍聴人の数：1 名
8. 会議要旨
  - (1) 令和元年度犬山城関連主要事業実績について  
(事務局より資料に基づき、犬山城天守修理に関する事業、犬山城の保存活用に関する事業及び犬山城の管理に関する事業について報告)
  - (2) 犬山城の新型コロナウイルス対策について  
(事務局より資料に基づき、犬山城における新型コロナウイルス感染防止対策、犬山城入場登閣者数及び国宝四城の新型コロナ感染症対策について説明)

委員①：犬山城の経済状況を考えると、今後の犬山城閉鎖という形をとらないためにも、新型コロナウイルス感染防止対策において出来ることは、多少経費が掛かっても状況判断しつつ十分に施していく。所有団体の白帝文庫と管理団体の犬山市とよ

く相談の上、いろいろな対策をするのが良いと思う。

委員長：お城の閉城中は城下町にも人通りがなく、お城が開城してから徐々に城下町に人が戻ってきた。また閉鎖したら元のように誰も歩かないまちになってしまう。

委員②：新型コロナウイルスの影響で収入がかなり落ちてしまうが、ビジョンに沿って進められている事業計画については確実に前進させていきたいと聞き安心した。犬山城には天守だけでなく城山にも価値のある本物が沢山埋もれている。これらを表に出さないといけない。今後の策定委員会の大きな仕事の一つとして文化的な立場からもこの埋もれている本質的価値を顕在化させることも検討しないとけない。新型コロナウイルスについては長期化を覚悟して WITH コロナという社会が続く中で、犬山城も新型コロナウイルス感染防止対応をどうしていくかを念頭に置かないといけない。現在出来ることは、3密回避、距離を取る、マスク着用、手指消毒を来城されるお客様に協力していただくことと、我々個人が気を付けることではないか。

委員③：事務局の説明通り、現在世間で言われていることは全て努力されているので、あとは観覧者の入場をさらに制限するなどしかないわけなので、この状態をゆるぎなく緊張感をもってやっていただきたい。白帝文庫でも今後のために繋がるようなことを努力して参りたい。

委員④：梅雨が明けてこれからの時期、新型コロナウイルス感染防止対策とともに熱中症予防もしなくてはならない。大変な実践だと思う。

委員①：入場者へのお城の見せ方についても付加価値を付けること、予約制なども含め検討していく時期が今後出てくると思う。

委員長：本日の議題には入っていないが犬山城の料金改定あるいは、総収入が減ることに対する値上げをどうするかについても、考えていく必要がある。

委員②：熱中症については、マスク着用により錯覚を覚えて脱水症状に気付かないこともあるので留意してほしい。

経済的なことと予防学とは連動して両方大事であると思う。犬山城は小規模だが中身の濃い城郭なので、このような状況の中でそこまでお金をかけなくても学術調査をして環境を整えれば見るところは沢山ある。再度、全国的に新型コロナウイルス流行の波が来た時に、閉城してしまうのか、あるいは予防をきちんとしながら人数を制限してゆっくりと深く見ていただいて少しでも収入を維持していくという考えも大事だと思う。

### (3) 令和2年度犬山城関連主要事業計画(案)について

(事務局より資料に基づき、犬山城保存活用に関する事業、犬山城の管理に関する事業の実施予定内容について説明)

委員③：石垣調査はどのような形でされたのか。成果物は。

事務局：立面図を作り1個ずつナンバリングし、石の積み方、石の状況等をまとめた石垣カルテ

を、「石垣整備の手引き」に基づいて作成し、成果物として提出され、今後の管理に役立つものになる。。

委員②：今空堀が整備されているが、お堀のところに江戸時代からの石積みが残っている。昔はその上に屏風櫓という櫓が図面上はあったが、今は折角の本質的価値を持った石積みが高木で見えない。江戸時代には高木は無かったと思う。見栄え・景観というのは非常に大事。天守の次に大きな価値を持つ見せ場だと考える。財源のこともあるが、高木を整理して昔の姿に戻していくことも大事だと思う。

事務局：保存活用計画を策定している委員会の中でも、どの時代の景観や風景に戻して行くのが議題になっている。皆さまと協議して、時代や樹種、今後の成長も考慮した計画を作り、皆さまに示しご意見をいただいてから着手したいと思っている。

委員②：屏風櫓の石積みだけでなく、七曲の石積み、売店の所の弓矢櫓の石積みもほとんど人の手が加わっていない。江戸時代からのこのような石積みが、樹木で覆われたり雑草で隠れて眺めることが出来ない状態。そんなに費用のかかるものではなく、少しの手入れで歴史が顕在化される。その石積みを通して天守を見上げると非常に価値のある風景。七曲の高木は景観の問題だけでなく、根が張って石積みが傾きかけている。そこを考慮していただきたい。

事務局：支障木は優先順位を高めてやっていきたい。大きな木に関しては計画的にやっていく。除草等日々の業務でやれることはやって、少しでもきれいなお城、城山を見ていただけるよう努めていく。

.

○ その他

※次回の委員会は、事務局の方から各委員の日程を調整し、文書等で連絡し開催する。